

17.

八甲田連峰 Walk

2002.9.22.

八甲田連峰 縦走 と 草紅葉の毛無岱

hkda00.htm by M. Nakanishi



田茂ヤチ岳ロープウェイ駅 - 田茂ヤチ岳 - 赤倉岳
- 井戸岳 - 八甲田大岳・毛無岱 - 酸ヶ湯温泉

9.22. 早朝 雲は多いが晴れ
青森始発酸ヶ湯温泉行のバスに
乗って八甲田へ。

八甲田へ登って酸ヶ湯温泉 仙人
風呂に入って それから八甲
田・十和田を經由して、秋田県
鹿角へ下って 花輪・八幡平の
麓 大湯か米代川沿いの温泉で
一泊。 ゆっくり 山の湯には行って 23日は釜石へ。今日は長い強行軍の1日。



田茂ヤチ岳頂上駅から青森方面

昨日の夜 三内丸山遺跡の森の中から 八甲田連峰の横
に昇っ「中秋の名月」。八甲田山のシルエットにこだました
山上進さんの名曲「縄文」の笛の音が耳に残っている。

始発より、30分早く臨時に出たロープウェイに飛び乗り、
朝靄の中、田茂ヤチ岳から八甲田大岳への稜線の縦走路を
歩き出した。紅葉を期待したがちょっと早い。

全山真っ赤とは行かないが、山腹
のあちこちで黄色や赤に色づき、
眼下に見える毛無岱湿原は草紅葉。
池澗の点在する中 広い湿原一帯
が秋の枯れた色一色になっている。
また、山は実りの秋。 赤く色づ
いた実をつけている。



田茂ヤチ岳 五色沼

2002.9.22.

1. 田茂ヤチ岳から赤倉岳・井戸岳・八甲田大岳へ 稜線歩き

ロープウェイ駅周辺はひくい樹林の中に池澁の散らばる田茂ヤチ岳の湿原。湿原越しの八甲田の峰々が美しい。一旦樹林帯の中に入り、赤倉岳へと樹林の中を登って行く。



約1時間ほどで赤倉岳の断崖の上に出て、そこからは井戸岳の火口壁を上って大岳と井戸岳の鞍部に出る。もう さえぎるものがない縦走路で正面には少し色好きはじめた山腹とぱっくりと口を開けた井戸岳 そして その向こうには大岳が大きな山体を見せ、豆粒ほどの大きさに火口壁の縦走路を行く人が見える。また、左手奥には大きな高田大岳が霞んでいる。

山上進さんの笛の曲「縄文」にぴったりの世界である。



井戸岳の火口壁の縁の縦走路をたどり、正面に八甲田大岳が見えるあたりから 避難小屋の見える井戸岳と大岳の鞍部に一機に 100m 下り、そこから又、一機に 150m 大岳の山腹を登りきって大岳の頂上へ登る。

鞍部の避難小屋の所からは毛無岱を経て酸ヶ湯温泉への登山道が伸び、多くの人が集まっている。頂上へ登りここまで戻ってから毛無岱を経て、酸ヶ湯温泉へ下る。

大岳のゆるい斜面の山体が正面にどっしりと座り、振り返ると池澁を前に紅葉しはじめた井戸岳の火口が美しい。

頂上直下のガレ道を登りきると広い頂上。 田茂ヤチ岳のロープウェイ駅から稜線の縦走路をめぐる約 2 時間ほどで八甲田連峰の最高峰大岳頂上。

本州北端の山ではあるが、やっぱり八甲田大岳は人気の山。人で一杯。360度の展望を楽しんでいる。残念ながらまだ、午前中ではあるが、もう雲が湧いてきて遠くまでは見えない。





八甲田大岳の頂上で 2002. 9. 22.



2. 八甲田大岳から毛無岱を通過して 酸ヶ湯温泉へ



大岳と井戸岳の鞍部 避難小屋から紅葉の毛無岱へ

大岳と井戸岳の鞍部から 毛無岱へ

一旦 井戸岳と大岳の鞍部に下りて、そこから西へ下りて原へ。約 30 分程青森椴松の樹林の中を抜けると草紅葉した上毛無岱。

樹林帯の中を八甲田山の中腹に広がる大湿

草紅葉した湿原の中を一筋の木道がまっすぐ伸び点々と散らばる樹木の青と湿原の草紅葉とのコントラスト



四茂十子岳 毛無岱の下り道が美しい。

湿原のバックにある八甲田大岳・井戸岳・赤倉岳の頂上部がもうすっかり雲の中に入って入る。

上毛無岱と下毛無岱の間は約 50m 程階段状に落ちており、下毛無岱の全景が見下ろせる。

草紅葉した湿原に緑の島と池塘が点々と見え、一筋の木道がそこを貫いている。
所々に赤くなった木々も見え、素晴らしい日本画の屏風を見ているような錯覚に陥る。
ゆっくりと廻りの景色を眺めながら 毛無岱の景色を楽しみながら午後 1 時前に酸ヶ湯温泉に降りる。

【 草紅葉した毛無岱 点描 】 2002.9.22.



酸ヶ湯温泉

酸ヶ湯温泉で山の汗を流して十和田湖から秋田県鹿角・花輪へ

酸ヶ湯へ入るのは学生時代に来て以来だから 30 数年ぶりか・・・

何度もこの横を通りながらである。最も そういうと八甲田山も今日までいつも眺める山で そのまま奥入瀬溪流・十和田湖へ・・・・・・・・

酸ヶ湯は乳白色の湯と広い広い仙人風呂での超人気スポットで人でごった返している。でも 入って帰ろうと。混んではいるが熱い乳白色の湯 板張りの落ち着いた山の湯に一気に疲れが取れる。



八甲田なんて・・・とっていましたが、やっぱり 深田久弥が選んだ八甲田山 素晴らしい山でした。特に 中秋の名月に浮かび上がる八甲田のシルエットを楽しんだ後の山だったので余計に印象的。

青森縄文の世界と重なって 本当に good

午後はバスでこの山並みを越えて南へ もう一つの秋田縄文の世界へ

TV でビックリした今年夏の花輪囃子のあの若い人達のエネルギー。触れてみたいお祭りでした。

その地 大湯の縄文の集まりには行き着けそうにないが、泊まった事のない花輪・鹿角。

米代川沿いのどこか温泉にとまって、秋田鹿角・花輪 縄文につながる夜を楽しむ予定。